

平成 24 年度犬山さくら保育園事業報告書

1. 基本理念

〈こんな保育園をめざしています〉

- ① 子どもたちに豊かな生活環境を保障していきます。
 - ・昨年度に引き続き子ども主体の保育、子どもの思いに寄り添うことへの理解と実践に取り組みました。「子どもの人格の発達を援助する保育者の役割」について伊藤なをみ先生を講師として学習してきました。
- ② 子育てのパートナーとして、保護者が安心して預けることのできる保育園をめざします。
 - ・一日保育士体験を取入れ、保護者にわが子のクラスの保育士として 1 日過ごしていただき、保育内容への理解をすすめました。
- ③ 職員が生き生きと働き続けられる保育園をめざします。
 - ・リーダーシップ研修や健康学習会等を通じて、よりよい人間関係を築くための学習をしました。
- ④ 地域に根ざした子育て支援センターをめざします。
 - ・昨年に引き続き、絵本や遊びの紹介、散歩、そして新たに給食試食会にも取り組みました。

2. 保育園内の役割分担を明確にし、遂行する。

- ・手作りおもちゃの会係り：若手職員を中心に、犬山市・大口町の職員にも呼びかけ開催しました。20 名ほどの参加があり好評でした。

3. 各種会議の充実を図り、決定事項を全員のものにする。

- ・調理員会議（調理員、パート調理員、園長、主任）を徐々に開催し、作業手順を振り返り園児の食事時間に給食を提供できるよう意思統一ができました。来年度は会議を定期化します。

4 地域に向けて子育て支援活動に取り組む。

- ・赤ちゃんひろば 毎週火曜日・なかよしひろば 毎週木曜日を開催し、広場担当職員の位置付けを明確にし、遊びや絵本の紹介、食べさせ方講習会等を実施し好評でした。
- ・地域ビラを四季の丘、もえぎが丘を中心に配布しました。

5. 職員の資質向上をめざし研修に取り組む。

- ・伊藤なをみ先生と共に「子どもの人格の発達を援助する教育者の役割」について学習に取り組みました。1 回目：0・1 歳児、2 回目：2 歳児。子ども一人ひとりにどう寄り添うか等、子どもの姿を通して学びました。
- ・各クラスリーダーが講師となり、パート職員研修に取り組みました。基本理念と保育目標、毎日の保育のなかで大切にしていることなどを、パート職員に伝え学習しました。

6.保育設備

- ・愛知県条例により、子ども一人当りの面積基準が、0・1歳児 3.3 m²、2歳児 1.98 m²となりました（H25年度より、猶予期間3年）。当園の部屋面積では、2歳児 15名、1歳児 14名、0歳児 11名の場合、定員 40名を確保できることとなります。ランチルームと各部屋が扉で仕切られている場合は、この人数は受け入れられません。そのため、ランチルームと各部屋の扉はなくすことにしました。
- ・各部屋の引き戸の具合が悪くなっており、昨年も何か所か修理をしましたが、ランチルームと2歳児室の引き戸については、倒れる恐れがあることと、上記面積基準条例に基づき撤去しました。
- ・木製滑り台のシロアリによる腐食が再度見付き、支柱を取り換える工事をしました。
- ・3歳未満児用遊具「ぶら下がりディスク」をモニター園として設置し、遊具開発に協力しています。
- ・園庭藤棚は、シロアリによる腐食が激しく、倒壊の恐れがあったため、撤去しました。

7.資金の計画

- ・通常経費は、運営費収入および補助金収入及び利用料収入で賄いました。